

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立鞍月小学校

①児童アンケート

(1) 英語科(小学校5年生:令和8年1月実施)

(%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	42.0	47.0	8.0	3.0	0
問2	英語科の勉強は大切だ。	84.0	15.0	1.0	0.0	0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	52.0	44.0	2.0	1.0	0.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	40.0	52.0	5.0	2.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	43.0	48.0	9.0	1.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	89.0	10.0	0.0	1.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	84.0	15.0	0.0	1.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	60.0	37.0	3.0	0.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	41.0	49.0	8.0	1.0	0.0

(2) デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	58.9	27.7	11.9	0.8	0.8
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	57.0	24.9	14.1	2.8	1.3
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	57.5	25.8	13.9	2.3	0.5

②指導改善の具体策

【英語科】 児童が実際のコミュニケーションの必要性を感じられるよう、より authenticな題材を積極的に取り入れていく。情報差(Information Gap)や意見差(Opinion Gap)、知識差(Knowledge Gap)など、さまざまなギャップを活用し、児童の「知りたい」「伝えたい」という意欲を引き出す授業を目指していく。また、児童が無理なく言語活動に取り組めるよう、モデル提示やキーワードの提示など、段階的に学習が深まっていくようにしたい。単元全体を通して目的・場面・状況を明確にし、児童が必然性をもって英語を使用する言語活動を設定していく。
【デジタル科】 ICTサポーターとの連携を深め、各教科での学習におけるICTの効果的な活用方法を検討し、情報を全校で共有していく。また研究授業をはじめ、各学年で行われている授業の中でICTが活用されている場面を校内プラットフォーム等を活用し、全校で共有していくことで、さらなる活用の充実を目指していきたい。

③学校関係者評価

【英語科】 児童アンケートの結果を見る限り、全ての項目において肯定的評価(そう思う+どちらかと言えばそう思う)が90%を超えるという良い結果を示している。子どもの興味を引く題材の工夫や実態に即した指導の結果だと思われる。一方で「そう思う」の回答が50%以下の項目もいくつか見られる。共通しているのは「質問したり、答えたり、読んだりする」という英語科の基本に関する項目である。今後児童が意欲的に英語を使って互いに交流する場面を工夫し、英語力が定着することを期待したい。
【デジタル科】 「そう思う」という回答がいずれも50%台であり、ICTを使う場面や利用の仕方などに子どもたち自身が満足していないことを示している。デジタル科は導入されてからまだ日も浅く、今後の実践の積み重ねが必要だと思われる。デジタル力は未来の子供たちにとって必要な力であることは間違いない。それだけに、デジタルに安易に頼るのではなく「必要に応じて」使う力や、情報リテラシーに支えられて「正しく使う」態度を粘り強く育んでほしい。